

請願第11号

東京都に対し

「英語スピーキングテスト (ESAT-J) の結果を都立高校入試へ活用しないことを求める意見書」提出を求める請願

【請願要旨】

11月27日、都内の中学3年生を対象にした英語スピーキングテスト (ESAT-J) が実施をされました。英語スピーキングテストは、学校の授業でどれだけ話す英語力が身についたかを確認するアチーブメントテスト (到達度テスト) という位置づけのものです。事業主体は東京都教育委員会、運営は民間の営利企業であるベネッセで共同実施されました。その結果を都立高校入試の点数に換算するとされています。

しかし、英語スピーキングテストについては、生徒、保護者、専門家から多くの問題点を指摘され、中止を求める署名の提出が行われてきました。以下、主な問題点を挙げます。

<評価の点数換算>スピーキングテストの点数を6段階、4点刻みで換算するため、1点を争う入試にふさわしくない。

<公平性、公正性>前半、後半の2部制で同じ問題が出されるため、問題の流出の可能性があり、後半の受験者が有利になる。

<不受験者の扱い>不受験者については、英語の筆記試験の得点が同じ生徒のESAT-Jの点数をもとに、仮のESAT-J結果を算出するとされている。自分の入試の点数が、他人の点数で決まってしまう。

<個人情報>受験にあたり、氏名・住所・顔写真・電話番号の個人情報をベネッセのサイトに登録しなければならない。個人情報が適切に取り扱われるかの不安がある。

<事実上の強制>ESAT-Jはアチーブメントテストの位置付けで、本来受けるか受けないかは任意であるにもかかわらず、入試に活用することで事実上の強制となっている。

他にも、採点結果の開示の不透明生、結果のわかる時期が遅いことが指摘されています。

実際27日のテスト後、受験生から前半の試験に答える生徒の声が聞こえた、など心配されていたことが起こっています。都立高校入試という人生の一大事に、理不尽な制度を拙速に進め、泣く受験生を出さないために、実施したテストの結果を入試選抜に活用することを中止してください。

【請願項目】

東京都に対し「英語スピーキングテスト (ESAT-J) の結果を都立高校入試へ活用しないことを求める意見書」を提出してください。